

知働的システムの  
実験的実装のための  
解釈・具体化  
Version 001

# 知

## 知 => UI 知

(理由)

- 概念や構成員がよく知られた知識であること
- システムに応用しやすい

# 働

知働 =>

片手でウェブサイト・アプリケーションを構築できる

⇔ Contextにより、システム側がメニューを出し、ユーザーは原則選択したり、質問に回答したり、または、自ら質問するのみ。ユーザーの現知識もContextの一部

# 要求・願望

## 要求・願望

=> 検索・選択

- 要求への答えを、潜在的に検索し続ける
  - ・ 仮決定を許しつつ
- ~のような: 似ているものを検索
- まねるという選択ができる
- ユーザーも、システムも、検索項目や結果を、管理、整理できる

# 知の形

キーフィールドをもつテーブル

=> 関係 (検索条件は「関係」の深さ)

